

## 平成25年度宮沢賢治記念館運営審議会会議録

出席委員 阿部弥之（会長） 押切郁（会長職務代理者）

高橋則子 中島健次 三浦公朗

欠席委員 菊池英雄 高橋和宏

事務局 花巻市まちづくり部賢治まちづくり課長 高橋久雄

佐藤館長 牛崎副館長 中島上席主任 滝浦副主任 太田社会教育指導員

1 開会 牛崎副館長

2 あいさつ 高橋賢治まちづくり課長

佐藤館長

3 議事

### (1) 平成24年度事業報告について 牛崎副館長説明

(阿部会長) たくさん人が来てたいへんでしたね。こういう時は特別にスタッフの増員と  
かをしているのですか。

(佐藤館長) ないです。勤務のシフトを少し変えて対応しています。平均すればここは1  
日3人強の勤務なのですが、イベントがあるときは全員で対応しています。

(阿部会長) 特に連休とか大変ですね。

(佐藤館長) 30周年等では賢治まちづくり課の方々にもご協力いただきました。

(阿部会長) この「デスティネーションキャンペーン」はもう終わったのですか。

(牛崎副館長) (終了し) 現在は宮城で行われています。

(阿部会長) このキャンペーンはすごい力があるのですね。

(牛崎副館長) 東京に行くとき随時岩手の紹介を行っていて、ポスターもたくさん貼って  
います。

(押切副会長) すごく現実的なことですが、たくさん人が来たときにトイレは間に合っ  
ているのでしょうか。

(佐藤館長) 館内のトイレは狭いのですが、(旅行)業者さんや観光ボランティアガイドさ  
んが記念館に来ると最初にさわやかトイレを紹介してくれます。非常に助かっており  
ます。

(中島委員) 入館者数について、震災と賢治の関わりについて非常にクローズアップされ  
ており牛崎さんもよくテレビに登場されていますが、データとしては出てこないと思  
うけれども震災が動機付けとなって来館が増えているということはないでしょうか。  
感覚で結構です。

(佐藤館長) 復興支援のボランティアの方がおいでになっています。一昨年の連休あたりが多かったです。直後においでになった方もいらっしゃいました。最近目立つのは、先日は茨城の団体でしたけれども記念館から陸前高田に向かう、または大船渡や陸前高田から来る継続的にボランティアで来る方と「自分たちは何もできないので現地に行ってとにかく買い物をして帰る。私たちはそれぐらいしかできない。」という方いらっしゃいます。沿岸とのかかわりはずいぶん多いです。実数としてなかなか調査はできない部分はあるのですけれども多いと思います。

(中島委員) (来館者用) ノートを置いてますよね。その中でそういう感想もあるのですか。

(牛崎副館長) 「がんばってください。」等の書き込みがあります。

(佐藤館長) 修学旅行でもそういった復興支援を入れた修学旅行を企画しているところもあるようです。

(押切副会長) 雪が多くてたいへんな時でも1月に行事をもたれているようですけれども、その方たちはどうやっていらっしゃるのですか。それから宮沢賢治イーハトーブ館だったら坂を使わなくても来れるのでこちらでやるということもあるのでしょうか。そういう融通性はあるのでしょうか。

(佐藤館長) 当然宮沢賢治イーハトーブ館のほうがピアノ、音響、客席そういった面では優れていますし、200人入ります。宮沢賢治記念館は椅子を準備しても100人くらいしか入らないです。ステージがあるわけでもないです。ただ宮沢賢治記念館のほうがいいという方もいるのでケースバイケースで対応して、開館記念行事9月21日は宮沢賢治記念館のほうがいいという方もあります。イベントについてはやはり利便性や交通手段を考えると冬はやはり少なめとなります。

(阿部会長) 平泉の世界遺産登録による影響は続いていますか。

(牛崎副館長) 松尾芭蕉の「奥の細道」に関連して松島へ行くコースが多いようです。

(押切副会長) もう少し北に来てくれれば(いいですね。)

(牛崎副館長) 昨年度「賢治まちづくり課」ができたことで一連の行事を「賢治カレンダー」としてまとめることができたので、賢治記念館・平泉というだけでなく全体的な見通しは入館者に以前に増して伝わっていると思う。前は個別のような、それぞれの活動だったので。

(阿部会長) 確かにこれだけの(内容のカレンダー)だとずいぶん埋まっているんじゃないですか。各団体が企画するもので。

(高橋賢治まちづくり課長) そのとおりに当課が発行しているものです。できるだけたくさんの方が参加できる行事を掲載しています。昨年度は年1回の発行でしたが今年から年2回の発行にしました。「春・夏号」が秋口までのイベントを掲載し、「秋・冬号」が来年の春先あたりまでを掲載することにしました。春に出すと秋・冬の行事は内容が決まっていないことが多い。さらに展示部門とイベント部門に分けての掲載で宮沢賢治記念館だけでなく全部掲載できるようにしました。

(阿部会長) ただこの場合は「賢治の世界セミナー」とか出張講座とかもあるんですけども、展示とか発表とかある程度整理してやっているんですよね。

(牛崎副館長) 「賢治の世界セミナー」はもともと宮沢賢治イーハトーブ館で「風のセミナー」でやっていたもので10年たち終了して再度始まったものです。記念館でやれるのかという不安がありながら始めて2年目になりますけれども。宮沢賢治イーハトーブ館の性格自体が2年前は宮沢賢治学会というのがあるんですけどもその主体の施設ということが強かったんですけども、昨年24年度を経過して一連のそれぞれの館の役割というか宮沢賢治イーハトーブ館のホール使用ということもありますし、童話村の去年からの(風のステージが)8月復活した全体的なものの捉え方として考えていく中で、この出前というのも記念館だけでやっていくものかどうかという気持ちもあります。かなり事業数が多いので。ただ去年行った亀ヶ森(小学校)とかも本当にいい子たちで本当に感激しました。

(押切副会長) 子どもたちは朗読を聞いて上を見たり下を見たり一生懸命でとてもかわいくていつまでもいい思い出です。(講師である) 私たちが子どもたちの純真さに打たれます。

(阿部会長) するとこの4ページにある開館30周年事業「賢治の音楽祭」ですけどもこちらもたいへんでしたね。スタッフを揃えるだけでも。私も聴きましたがなかなかでした。たいへんだっただろうと思います。

(押切副会長) 花巻で大ホールを埋めるのはなかなかたいへんです。(私も) 経験ありますがたくさん集めても500か600集まればいいほうで。ほとんど満席でしたね。

(佐藤館長) 子どもたちができましたので。(全体の構成の) ちょっとボリュームが多かったです。

(阿部会長) 欲張りすぎる面もあったと思います。でもご苦労様でした。

## (2) 平成25年度事業計画について 牛崎副館長説明

(押切副会長) 沿岸にたくさんの詩碑がありますけれども、どの詩碑が残っていてどの詩碑がなくなったというのは把握されているのですか。

(牛崎副館長) すでに把握されておりまして、流されて完全になくなったのは高田高校のだけで、ほかには話題になりましたけどもちょうど海に向かって建っていたので免れたとか賢治の発動汽船の碑だけが残っている等新聞に大きく取り上げられました。

(押切副会長) 島ノ越が残ったとかね。

(牛崎副館長) 流されたけど見つかったとか。

(中島委員) リニューアルのことですが本年度設計とのことですが基本的な考え方として方向性を市なり記念館で示すのか、それとも白紙の状態で作るのか、それから生誕120年もくるので来年工事するとなれば閉館してしまうのか工事しながら開館するのか、がらっと変えるくらいのものになるのか私も分からないですが、進め方ちょっと

教えてください。

(高橋賢治まちづくり課長) 決め方についてはどういうコンセプトでやっていくのかというのを今まさに詰めているところなんですけれども、最初に業者さんを決めました。それはこちらから提案してこれをどう見せるのかということではなくて、どういう考え方でここを整備展示展開していくかプロポーザルをして決めました。今まさにどういう風な形でみせていくかということで我々が思っている課題を業者さんにお話していきまして、見せ方ということで話し合っています。それを今後学会の先生方だとか記念会さんだとか意見を聞きながらこれを挙げていくという手法で設計を始めています。来年どうするのかということですが、工事の期間は契約上1年間ということですが考えておりますけれども、その間ここを閉めるということではなくて今の考え方では冬季間に集中して現場に入る。ただ展示物は作っていかなくちゃならない作りこみをしていかなければならないので、契約は1年の契約にしようと考えていますけれども現場に入るのは冬季間と。そして冬季間は分けて半分工事しながら開館するのか、それが不可能なら冬季間閉館するのか、閉館する場合は展示物の一部を博物館で展示するとかどこかで賢治の物は展示しなければならないとか。設計が終わるとおおむね来年の工事の日程が出てくると思います。今の時点では冬季間の閉鎖はやむを得ないかと思っています。

(押切副会長) 融雪の方法は色々あると思うのですが、よく分からないけども地下水がないと難しいとか、今科学が発達しているときにやり方あるのでしょうか。

(高橋賢治まちづくり課長) 融雪はまさに工法、どの手法を使うかを含めて今年設計するわけなんですけれども、今お話に出ました地下水、今バス停のところにやぐらが建っていますが、いまあそこでボーリング調査しています。地下水の調査をしています。地下水の方がランニングコスト的には安いんで、将来的に。電気だと高くつくんですね。ただ工事をするととなると電気のほうが早いとかです色々あるんです。ですからバスも来ますし工事をどういう風にやっていくかということもあります。全部下においてつくって早く遊歩道歩かせてやるかとか、そのときはいつなのかとかです、どの手法でやるのかを含め検討中でございます。最後どこに戻すのか行ってこいになるのか、後はそのとおり地下水方法がだめであれば、灯油で熱をやってパイプを通すとかという方法もありますし、どれが将来的にいいかということを含め。できれば冬季間の閉鎖とあわせてこの工事もやればいいのですが、それが一番お客さんに迷惑かからないですけれどもただその期間内で道路が完了することができるか、どの方法をとるかによって違うので、できる限りそれにはあわせていきたいなと思っています。場合によって道路工事は2年かかるかもしれません。

(阿部会長) 特別企画展の「光太郎と賢治」に関連して、光太郎記念館の資料ですが館そのものが前の花巻歴史民俗資料館に移動してもそういうものの責任、展示なんかの責任というのは高村記念会なのですかそれとも市なのですか。

(高橋賢治まちづくり課長) 館の運営は行政になりまして、市になったんですがあそこにあります彫刻5点と額に入っている書2つだけが花巻市の所有です。それ以外はすべて高村記念会の所有もしくは個人の所有で市としては寄託を受けて展示しているということなので、あそこにあるものは市が責任をもって管理しなければならないということになります。

(阿部会長) 実は展示されているもので私の親父が持っていて貸しているものがあるんですけども、そういうものが虫に喰われたりしているようなんです。それでその管理の方法をめぐって相当議論していました。もう病気で倒れてしまった戸来さんとか。管理が移ったときにどうやってしていくか(記念会では)やっていたようだけど詳しくなかったわけです。それで虫にも喰われているようなことをまわりでいわれています。私もこの間「このように」って見せられて、確かに(展示)物がちゃんと下につかないように吊らなきゃいけないのに下についてたりしてすぐ虫がかじりそうな状況だったりして、これこなんだといわれてるようでどういうふうに生かせるかそういうことの責任は市に移ったのかな、と思ったりして。急がなきゃいけないものがたくさんありそうなんです。生誕130年を迎え光太郎の花巻における仕事が整理されていない。光太郎が詩を書いたことと、書を書いたこと、書については何を書かれているのか未整理です。よろしくお願いします。賢治の学籍簿「3じ」の残りの2人(シュウジとキンジ)のがあるか興味深いですね。

(中島委員) ここの資料の保存は大丈夫なのですか。

(佐藤館長) 基本的には大丈夫です。ただ、今仕事をする人たちは重機でバツと10分以内でやってしまいますので、そういうのであればなんともならないですが、物理的にテロリストみたいな人たちが来ればだめでしょうけど、今の保管状況で。今老朽化しているところはありますので、さっきの阿部先生の資料の話ではないですが保存処理ということは考えていかなければならないです。

(牛崎副館長) 学会で資料の劣化を防ぐためのプロジェクトチームを作って検討していました。ただ震災があったために前代表理事の時代にやっていた、1つ1つ原稿をCD-ROMからとって確認作業をしていましたが、震災を境に学会の仕組みも変わり、現代表理事および宮沢賢治イーハトーブ館館長の体制になり時機を見て再開されると思います。

(高橋委員) 賢治まちづくり課が新設されて、ここの記念館の運営はやりやすくなりましたか。記念館が主導でやっていることはやりづらいのではないかと思ったりするのですが。

(佐藤館長) 例えば色々な問い合わせが当記念館、宮沢賢治イーハトーブ館、またはさまざまな団体からの問い合わせにワンストップで対応してくれることと、情報発信、どれからここを拠点とした街全体で賢治を見せていくか、あるいは顕彰していくか正しい伝え方として、私は賢治まちづくり課ができてよかったと思っています。ただこれ

は賢治まちづくり課とは別にしてここが単独の記念館ということを考えると、本来資料収集をしたり資料の整備とか企画展とかいうようなことはきりが無いのですが、本当は博物館並みの機能が、あるいは建物がほしいなと思うんですけども、ただ今までの30年の流れの中でずっとやってきたこと、これはやはり大事にしなければならないと思います。結論から言うと細く長く確実にやっていく、賢治記念館だけ、宮沢賢治イーハトーブ館だけではなく、例えば先ほど出ました保存処理の機能やスキルを持っている人間がいるし、物理的にステージとか会場が足りない場合は宮沢賢治イーハトーブ館等一体としてやっていかなきゃないなと思っています。横断的に融通してやっていかなきゃない。昔みたいにお金があっというんなことできる時代じゃないのでそのあたりは知恵と工夫ということで色々お願いしていくしかないです。

(高橋委員) 市民から見るとそれぞれやっている形で本当のいまおっしゃっているような賢治の研究からは外れているのかな・・・ルートが難しいのかな、市役所の中はどんどん異動して1年きりで変わっていきますのでね。そうだったら本当に続くのかなと思いつつ市民は見ております。やっぱり同じ方がいるのは細く長くずっとできるんだと思います。ぜひその線を大事にしていかなければならないと思います。お金もなければ何にもないしめつけだけがあってというのでは大変だろうなって市民は感じております。

(阿部会長) 記念館とか博物館とかのミュージアムとは本来はここに人が集まる、見て終わりというのはだんだん時代遅れになってきているらしいので、そういう面ではある種ガイド、ボランティアガイドが案内するという場合によっては館外でも案内する記念館と他の場所の説明もする、その養成がすごく重要だと思っています。そのあたりはどのようになっていますか。それがなければ通り一遍となり中には関心ある方もいらっしゃるかもしれない。そういう方にも納得してもらおう、あるいはそういう人をもっと詳しい方と繋ぐというようなことも大事だと思いますね。

(佐藤館長) 今日ボランティアガイドさん入っていますが、私たちだけで解説するのも限界があります。ボランティアガイドさんにはたいへん感謝しています。所管は観光協会ですが本当に毎日のようにいらして、1日何回とか、ここに限らず詳しい方とかイギリス海岸行ってきたとか花巻新渡戸記念館とか一緒に行ってきたとか、こちらが体調面を心配してしまうくらいです。そして去年から「はなまき検定」が実施され若い方が合格もしているが、ボランティアガイドは時間的余裕がないと引き受けられないということもあり、いかに少しずつ広げていけるかそれがこれからの課題だと思います。

(阿部会長) 最近会津に行ってきましたがボランティアがたくさんいました。(ガイドがないと) 観光地はだめだと思います。ガイドの中にすごく高齢だが情熱を持った方もおり、この方の二世の育成が必要です。

(佐藤館長) 市民の会にお手伝いいただきたいと思うが、無理されないようにしていただ

きたい。どこの観光地だったか中学生が長期休暇中にガイドをしているところもあるようです。高校生中学生がでてくればすごいと思う。それが継承にもなるし広がりにもなります。

(阿部会長) いっぺんに覚えなくてもいいから少しずつ育成できれば。

(押切副会長) 賢治さんの場合は国内だけでなく海外からも問い合わせはあるかと思いますが、家族が平泉関係の仕事でパリに行ったところ、パリの方々が賢治の話と震災との関連を知りたがっていた。帰国後資料を発送し、パリの市役所に展示されているとのこと。震災と賢治と平泉が今結びついています。

(中島委員) ガイドの方から聞いたが、賢治に詳しい人はさらに聞くし、名前を知っている程度の方はすごく難しいと聞きます。

(三浦委員) 賢治というのは特別です。会津のガイドと賢治のガイドでは質的にぜんぜん違います。賢治に詳しい人は自分と賢治を直結している。横には広がらない、そのように思います。あなたはどう思っているかしらないけどおれはこうだ、という感じで。例えばガイドのAさんがガイドのBさんに話をすれば「違うんじゃないの」となる。だから横に広がらず一緒にやろう、ということにならない。みんなそれぞれに本を読んでいる。藤原三代は本書いてないですね。だから何言っても「違う」とならないんだけど。そういう難しさはありますよね。あるけどもその難しさをクリアしないとボランティアガイドは増えないだろうと思う。かなり難しいがやっぱり何とかしないと足りない感じがします。

(佐藤館長) ハードルを高くすると誰も入らない。入ってきてから勉強できるような、ガイド同士でルールを作って運営していかないと難しいですね。

(阿部会長) 人によっては自分の賢治像を作り上げている人もいる。花巻市民が賢治のことを話せるようになるのを目標にしてはどうでしょう。

(佐藤館長) 毎週日曜に来る小学生と保護者がいます。ものすごく詳しい。何かの機会に光を当ててあげたいと考えています。

(この後太田指導員より賢治の世界セミナー説明)

#### 4 その他

特になし

閉会